

【研究論文】

保育系短期大学生に対する英語多読 ー読解力と情意面への影響及び読みの傾向ー

松井 千代* 松井 孝彦**

要 旨

本研究では、松井・松井（2016a）⁽¹⁾と同様の実践デザインを用い、情意面と読解能力の変容について調査した。その結果、情意面については松井・松井（2016a）⁽²⁾と同じく不安感の軽減と、読書量に従い英語に対する有能感が高まる様子を確認することができたが、読解力、読解速度、読解効率については変化が認められなかった。しかし、多くの先行研究の結果と異なる読解速度の低下については調査したところ、保育系短期大学生は多読中に読み聞かせを意識した読みを行っている可能性があることが分かった。

キーワード：保育系短期大学生、多読、読解能力、動機づけ

I. はじめに

筆者の担当する英語の授業では、学生たちに英語本来の楽しさを感じてもらい、英語学習に対する意欲を高めてもらいたいと考え、英語学習に対する動機を高める効果があると言われる多読に取り組ませている。昨年度は、本短期大学幼児教育学科1年生が半年間英語の多読に取り組んだ結果、英語を読むことに対する不安感が軽減される様子、そして、読書量に従って英語を読むことに対する自信が高まる様子を報告した⁽³⁾。

昨年度からの継続研究となる本年度は、多読の情意面に対する影響に加え、昨年度課題として掲げた多読が読解能力に与える効果について調査をする。なお、本研究では、参加者はアンケートおよびインタビューに答えているが、匿名性を確保していることを申し添えておく。

II. 多読に関する先行研究及び本稿の目的

本研究における多読は、「学習者の中間言語より易しい教材」を、「母語に訳すことなく」「楽しみのために」「大量に読む」ことを指すこととする⁽⁴⁾。

最近発表された多読研究に関する論文では、英語学習に対する動機づけや情意面に関する実証研究が多く見られるものの、読解能力との関連について検

証した研究はあまり見られない。情意面に関する研究については、英語が嫌いな学習者が減少し、英語学習に対して肯定的な思いをもつようになったという報告が見られる^{(5) (6) (7) (8)}。読解力に関しては、社会科学系の大学1年生22名を対象とした研究⁽⁹⁾がある。その研究では、週1回90分の授業の、最初の30分を多読の時間として確保し、前後期24回の授業で多読を行ったところ、英語力は有意に向上し、特に文法と語彙において中程度の効果量で向上が見られたことが報告されている。この報告は、国内外の多読の実証研究において、多読がリーディング技能や語彙力の向上に効果があるという報告と符合する^{(10) (11)}。他にも、多読によってリスニング、ライティング、スピーキングの技能が向上した例や、スペリング力、発音の能力が向上した例も報告されている⁽¹²⁾。

短期大学における最近の多読の実証研究については、調査をした限りでは見つけることができなかった。以前の研究では、医療系短大の2年生後期に毎回90分間多読に取り組ませたところ、学生が多読を楽しみながら意欲をもって授業に取り組むようになったことが報告されている⁽¹³⁾。また、総合文化学科の1・2年生に対してそれぞれ半期間授業内外で多読活動に取り組ませたところ、英語力の向上と英語を読むことに対する肯定感が高まったことが報告されている^{(14) (15)}。

* 岡崎女子短期大学 ** 愛知教育大学

短期大学における多読の実証研究において、木村(2016)⁽¹⁶⁾のように授業時間内の一部のみを用いて継続的に多読を行った際の効果について検証された実践研究は少ない。そこで、本研究では、松井・松井(2016a)⁽¹⁷⁾と同様の実践デザインを用い、授業時間内の一部のみで行う継続的な英語多読が、保育系短期大学生に対してどのような変容を与えるかについて調査することを目的とする。具体的には、英語を読むことに対する情意面への影響に加え、英語の読解力、読解速度、読解効率に与える影響についても述べていくこととする。その際、読書量の違いにより変容が異なるかどうかを調査するために、読書量の多い群と少ない群とを設定し、それぞれの変容について分析をしていくこととする。

Ⅲ. 実践デザイン

1. 参加者

「外国語コミュニケーションⅠ」を受講する本短期大学幼児教育学科1年生を対象とした。授業を受講する86名の中から、読解力検査当日に欠席をした者と、読解力検査の問題を全て解答できなかった者とを参加者から除外した。また、読書量がM±2SDを超える者及び読書記録等のデータがすべてそろわなかった者についても参加者から除外した。そして、多読による読書量(総読語数)順に並べ、読書量の多い者29名と少ない者30名を本研究の参加者とし、分析の対象とした。参加者の中には、本学入学以前に本研究で教材として用いる本を読んだことのある者はいなかった。読書量が多い群を多量読書群、少ない群を少量読書群と命名した。

2. 使用教材と多読の実践手順

使用教材として、SSS英語学習法研究会による多読用図書の「読みやすさレベル」(YL)を参考にし、YL0.1から3.8までのCambridge, HarperTrophy, Macmillan, Oxford, Penguin, Random House, Scholastic, Thomson等の出版社が出版するGR(Graded Reader: 英語学習者用の難易度別読み物)やLR(Leveled Reader: 母語話者用の難易度別読み物)、

英語の児童書を、計429冊を準備した。それらの本を難易度順に5つのレベルに分け、学生が難易度に応じて本を選びやすいようにした(表1)。

本はレベル別でかごに収納した。また、本には通し番号を付けた。それぞれの本の表紙には図書用の分類シール(各レベルにより色分けがされたもの)を貼った。分類シールは3段になっており、上から「通し番号」「ジャンル」「その本の総語数」を書いた。

このようにして準備した多読用教材を使用して、以下のような手順で多読を行った。

- ① 休憩時間中に、教員が教材用の本を入れたかごを台車へ乗せ、教室へ運搬する。
- ② 教員は、教室の前面にかごを並べる。
- ③ 教科書の履修が終了した授業後半、教員が多読を行うことを宣言する。
- ④ 学生は、かごから本を一冊選んで座席に戻り、読書を始める。
- ⑤ 学生は、本を読み終えたところで感想用紙に読後の感想を記入し、本を返却する。
- ⑥ ⑤で本を返却した学生は、次に読む本を選び、座席に戻る(以降⑤と⑥の繰り返し)。
- ⑦ 教員が終了の合図を出す。
- ⑧ 学生は感想用紙に必要事項を記入する。時間内に一冊読み終えられなかった学生には、読んでいた本のページ数を記録させ、続きから読むことができるようにさせる。
- ⑨ 授業終業後、学生は図書を返却する。

3. 多読実践期間

多読は、2016年4月初旬から2016年7月中旬までのおよそ3ヶ月間計13回の授業内で行った。教科書の履修を終えた後の授業の最後の時間を用いて、学生に多読用図書を読ませた。多読のための時間は各授業で異なり、それぞれ10分～20分程度であった。総時間数は本年度もおよそ180分となった。

4. データ収集

(1) 情意面(動機づけ)に関して

多読が、学生の英語を読むことに対する情意面にどのように影響を与えるかを調査するために、『英語で読むこと』に関するアンケート」を、多読実施

表1: 多読用教材のレベル、ジャンル及び冊数

レベル	レベル分け(SSSのYL)	主なジャンル(SSS書評システム)	冊数
Yellow	0.0 - 0.3	幼児向け, 古典, 動物	82
Green	0.4 - 0.5	幼児向け, 古典, ほのぼの, 動物, フィクション, 自然科学, 喜劇, 実話	82
Blue	0.6 - 0.9	幼児向け, 古典, 人間もの, 推理もの, フィクション犯罪もの, 学園青春物	88
Red	1.0 - 2.2	ほのぼの, 喜劇・風刺, 推理もの, 恋愛, 人間もの, 犯罪もの, 伝記もの	108
Purple	2.0 - 3.8	喜劇・風刺, 推理もの, 恋愛, 人間もの, 犯罪もの, 伝記もの	69

前（4月第1回目の授業）と、多読実施後（7月第14回目の授業における多読実践の後）に、学生に記入させた。これはTakase（2007）⁽¹⁸⁾のアンケートを参考にして作成しており、第二言語学習や教育心理学の知見を基に、全31項目で構成された5件法のアンケートとなっている（資料1）。

（2）読解力、読解速度、読解効率に関して

多読が読解力や読解速度、読解効率に影響を与えるかどうかを調査するために、多読実施前と多読実施後に読解力検査を行った。

読解力検査の問題には、EPER（Edinburgh Project on Extensive Reading）のテスト LEVEL G の Version 1 及び Version 2（共に全18問、24点満点を100点満点に換算）を用いた。試験中は大型タイマーを教室の前に設置し、全問題を解答し終えたところで、検査にかかった時間を学生に記録させた。その時間と EPER のテストの総語数から読解速度（総語数÷読みにかかった時間（秒）×60）を算出した。さらに、読解効率には、読解速度×試験の正答率で算出した数値を用いた。

IV. 結果

1. 読書量

全13回の多読期間中に参加者が読んだ語数は表2の通りであった。また、多量読書群の学生と少量読書群の学生が読んだ語数は、それぞれ表3、表4の通りであった。

表2：全学生の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
1,065	4,426	8,136
n = 59		
SD = 1902.60		

表3：多量読書群の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
4,227	6,027	8,136
n = 29		

表4：少量読書群の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
1,065	2,879	4,003
n = 30		

2. 情意面（動機づけ）のアンケート結果

英語で読むことに関するアンケートの31項目に

ついて、多量読書群と少量読書群ごとに、多読実践前と多読実践後の結果をまとめた（資料2、資料3）。

各項目を5件法で答えさせた結果について、「5. あてはまる」に回答が偏った項目（ $M+SD > 5$ ：天井効果）は表5のように、「1. あてはまらない」に偏った項目（ $M-SD < 1$ ：フロア効果）は表6のようになった。また、多読実践前後の差が大きかった項目について、多量読書群は表7のように、少量読書群は表8のように、それぞれなった。

3. 読解力調査の結果

多量読書群（ $n=29$ ）と少量読書群（ $n=30$ ）に関して、多読実施前と多読実施後における読解力、読解速度、読解効率の分散分析表は、表9から表11のようになった。また、読解力、読解速度、読解効率に関する多量読書群と少量読書群の交互作用をグラフで示した（図1～図3）。

V. 考察及び今後の課題

アンケート結果及び読解力調査の結果を基に、読書量の違いに注目して多読の影響を考察し、課題を見出していくこととする。

1. アンケートから両群に共通して見られる影響：不安感の軽減

表5を見ると、多読実践前の4月には両群とも「難しい単語がある英語の本は読みたくない」（項目9）と強く思っている。しかし、7月には両群とも項目9は見られない。

多量読書群では、多読実践後に「英文を読んでいて、少しくらい内容が分からなくても気にしない」（項目27）と強く思うようになり、分からないことに対する不安感が軽減している様子が見られる。また、少量読書群では多読実施前に「英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる」（項目23）、「易しい英語の本をたくさん読むには頑張らなければならない」（項目24）と強く思っている。しかし、多読実施後には両項目とも「5. あてはまる」には見られず、資料2及び資料3からも、両項目とも数値が下がっていることを確認することができる。さらに、両群とも、表5、表7及び表8から英語を読むことに対する肯定的な思いが強くなった様子を見ることができる。

以上の点から、難しい英語を読みたくない、読んでも分かるだろうかという学生の不安感を、多読が軽減させることができたのではないかと考える。

2. アンケートから両群に共通して見られる影響： 英語を学ぶことに対する意識の変化

表6を見ると、多読実践前の4月には、多量読書群では11の項目が、少量読書群では12の項目が、

それぞれあてはまらないに偏っている。これらは、その要因から三つのグループにまとめることができると考える。

表5：「5. あてはまる」に回答が偏った項目（M-SD > 5：天井効果）

「5. あてはまる」に偏った項目			
多量4月	多量7月	少量4月	少量7月
4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。	9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。
9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	27. 英文を読んでいて、少しくらい内容が分からなくても気にしない。	23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。
21. 英語の本を読んで視野を広げたい。		24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。
25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。		25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。
30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。			

表6：「1. あてはまらない」に偏った項目（M-SD < 1：フロア効果）

「1. あてはまらない」に偏った項目			
多量4月	多量7月	少量4月	少量7月
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。
3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。		3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。	5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。
5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。		5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。	17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。
7. 成績を上げるために英語の本を読む(読んでいる)。		7. 成績を上げるために英語の本を読む(読んでいる)。	26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。
11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む(読んでいる)。		11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む(読んでいる)。	29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。
13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む(読んでいる)。		13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む(読んでいる)。	
15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)。		15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)。	
17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。		17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。	
26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。		22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。	
28. 短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む(読んでいる)。		26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。	
29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。		28. 短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	
		29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	

表 7：多量読書群における多読実践前後の差が大きかった項目

項目	4月	7月	差
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	1.93	3.10	1.17
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	2.55	3.86	1.31
10. 友達の感想を聞いて英語の本を(更に)読もうと思った。	2.45	3.45	1.00
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	2.83	4.17	1.34

表 8：少量読書群における多読実践前後の差が大きかった項目

項目	4月	7月	差
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	2.97	4.30	1.33
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	1.60	2.77	1.17
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	2.03	3.47	1.43
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	2.50	3.73	1.23
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	2.57	3.60	1.03
22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。	2.23	3.23	1.00
28. 大学入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	1.40	2.50	1.10

表 9：多量読書群と少量読書群の読解力に関する分散分析表

表9-1 クロス集計表

	Pre (多読実施前)		Post (多読実施後)	
	M	SD	M	SD
多量読書群 (n=29)	68.39	17.70	71.84	17.13
少量読書群 (n=30)	51.94	19.47	59.44	20.11

表9-2 分散分析表

要 因	SS	df	MS	F	p
群	6132.785	1	6132.785	11.604	.001
誤差	30125.160	57	528.512		
Pre-Post	883.749	1	883.749	5.252	.026
群×Pre-Post	121.037	1	121.037	.719	.400
誤差	9591.475	57	168.271		

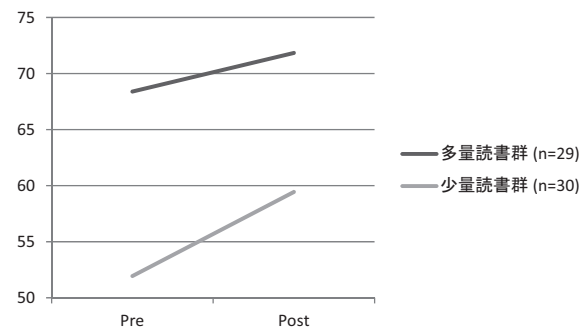


図 1：読解力に関する多量読書群と少量読書群の交互作用

表 10：多量読書群と少量読書群の読解速度に関する分散分析表

表10-1 クロス集計表

	Pre (多読実施前)		Post (多読実施後)	
	M	SD	M	SD
多量読書群 (n=29)	64.20	14.86	65.52	20.18
少量読書群 (n=30)	55.11	6.93	51.41	12.31

表10-2 分散分析表

要 因	SS	df	MS	F	p
群	3970.190	1	3970.190	12.057	.001
誤差	18768.653	57	329.275		
Pre-Post	41.426	1	41.426	.513	.477
群×Pre-Post	186.298	1	186.298	2.305	.135
誤差	4607.324	57	80.830		

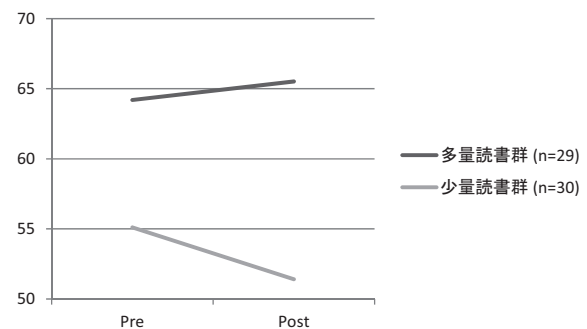


図 2：読解速度に関する多量読書群と少量読書群の交互作用

表 11：多量読書群と少量読書群の読解効率に関する分散分析表

表11-1 クロス集計表

	Pre (多読実施前)		Post (多読実施後)	
	M	SD	M	SD
多量読書群 (n=29)	45.11	19.42	48.08	20.82
少量読書群 (n=30)	28.85	11.95	30.68	12.57

表11-2 分散分析表

要因	SS	df	MS	F	p
群	8351.213	1	8351.213	18.354	.000
誤差	25935.598	57	455.010		
Pre-Post	170.447	1	170.447	1.771	.189
群×Pre-Post	9.620	1	9.620	.100	.753
誤差	5485.551	57	96.238		

一つ目は「達成目標」である。これは、項目 2「読むスピードが速くなるように英語の本を読む（読んでいる）」、項目 7「成績を上げるために英語の本を読む（読んでいる）」、項目 11「もっと教養を身につけるために英語の本を読む（読んでいる）」が該当すると考える。二つ目は「入試及び義務的な外的動機づけ」である。これは、項目 3「高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む（読んでいる）」、項目 5「短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている」、項目 13「将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む（読んでいる）」、項目 28「短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む（読んでいる）」、項目 29「周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる」が該当すると考える。三つ目は「道具的・実用的価値観」である。これは、項目 15「インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む（読んでいる）」、項目 17「英語でメール交換が出来るようになりたいから、英語の本を読む（読んでいる）」、項目 26「英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる」が該当すると考える。これら三つのグループが「1. あてはまらない」に偏っているということは、学生が英語を学ぶ目的を見出していないと考えられる。

しかし、多読実践後の 7 月には、三つのグループがその一部を残し全て「1. あてはまらない」からなくなっている。この結果は松井・松井 (2016) ⁽¹⁹⁾ の結果と符合しており、学生が英語を学ぶ目標をもったのではないかと推察される。少量読書群には、多読実践後にも「1. あてはまらない」に 5 項目残っているが、表 5 及び表 8 から、少量読書群の学生は「入試のため」や「道具」として英語を学ぶよりも、楽しさから英語を読もうとしているようにも思われる。

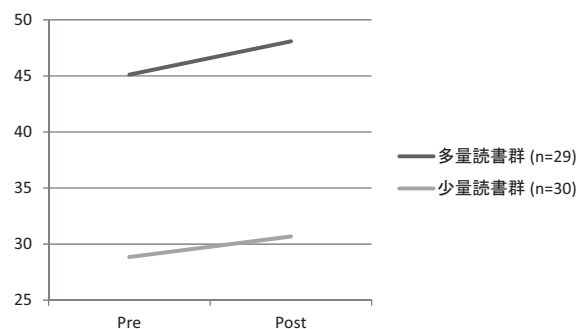


図 3：読解効率に関する多量読書群と少量読書群の交互作用

以上の点から、多読を通して英語を読むことが楽しく感じられるようになることで、英語を学ぶ目標を持たせたり、英語は何かの役に立つという思いを抱かせたりすることができるのではないかと考える。

3. 昨年度の結果との比較：読書量と有能感との関係

昨年度の松井・松井 (2016) ⁽²⁰⁾ における少量読書群の平均読語数は 2,269 語であったが、表 4 を見ると本年度の少量読書群は平均で 600 語程度多く読んでいることが分かる。そして、表 5「5. あてはまる」の、少量読書群における多読実施後である 7 月の欄に、昨年度は見られなかったが本年度は見られる項目として、「やさしい英語の本を沢山読むことは簡単である」（項目 1）と「やさしい英語の本を沢山読むことに苦労はない」（項目 12）とがある。

昨年度は、多量読書群と少量読書群との比較を通して、読書量が多くなることで英語を読むことに対する自信や意欲が高まる可能性を見出したが、本年度は、少量読書群における、昨年度と本年度の読書量の差と「5. あてはまる」の項目内容から、読書量と有能感との関係を見出すことができたのではないかと考える。

4. 読書量と読解能力との関連について

本研究では、読書量と、読解力、読解速度、読解効率それぞれとの間に交互作用は見られなかった。この結果は、多読は短期大学生にとって読解能力を高めるために有効ではないと判断すべきか、あるいは、多読の影響が見られないという「6～8 月の潜伏期間」^{(21) (22) (23)} の影響と判断すべきか、結論を述べることはできない。

また、読解速度に関する本研究での結果は、多くの先行研究に反する結果となっている。多読により最初に効果が現れるのは読解速度であり、Matsui &

Noro (2010) ⁽²⁴⁾ にも多読によりまず読解速度が向上することが示されている。この点について次項で考察したい。

5. 保育系学生の、多読用教材の読みの特徴

多量読書群の学生の読解速度が変わらず、少量読書群の学生の読解速度が遅くなったことは、前項で述べたようにこれまでの先行研究の結果とは異なった結果となった。この結果については一つ理由が考えられる。

昨年度も本短期大学幼児教育学科において英語多読を試み、情意面についてのアンケートを採った。また、同時期に本短期大学ビジネス学科においても同様の英語多読を行い、同じアンケート調査を行った。その結果には、両学科の間に違いが認められた。

この違いを分析するために、それぞれの学科から数名を抽出し、半構造化面接を行った。すると、ある保育系学生が「話で起こっていることが頭の中で動く。映像みたいに話の中でキャラがセリフを言っている感じで動いていく」と答えた。一方、あるビジネス系の学生は「シリーズを読み進めようと頑張った。レベルが上がっていくと、文で理解しようとして、絵は確認程度になってきた」と答えた。これは、保育系学生は『絵先行型の読み』を、ビジネス系学生は『文字・文先行型の読み』を、それぞれしているのではないかと思われた ¹⁾。

多読の効果としてこれまで報告されている読解速度の向上は、保育系学生ならではの読みの特徴のために現れなかったと言えるかもしれない。インタビューの中で別の保育系学生は次のように述べていた。

自分のためだけでなく、他の人と感想を言いたいと思うようになってきた。キッパ（シリーズ本）みたいな簡単な本でも、人に読み聞かせをすると楽しそう。仲間とシェアしたいと思う。いっぱい読むことで読む力が上がった。 ²⁾

多読後に毎回感想シートを記録させているが、保育系学生の感想には「この本は読み聞かせによさそう」という記述が少なからず見られる。将来保育者になる学生にとって、絵本は、たとえそれが英語絵本であったとしても読み聞かせの教材となりうる。保育系学生は、読み聞かせ技能の重要性を高く認識しているため、絵本の内容理解に重きを置き、読み聞かせ技能の一つである「ゆっくり・間を取って読む」という読みをしていることも考えられる。 ⁽²⁵⁾

6. まとめと今後の課題

本研究の結果から、多読には、読書量にかかわらず、英語を読むことに対する短期大学生の不安感の軽減や、短期大学生に対して英語を学ぶ目標をもたせるといった効果があると考えられる。また、読書量が増えることで、短期大学生に対して英語を読むことに対する有能感を与えることができるとも考えられる。これらの結果は、昨年度の結果と符合するが、これらが短期大学生に対する多読の効果であると判断するには、さらに精査する必要があると思われる。また、読書量が読解能力に与える効果については今回確認できなかったが、本研究の結果のみで効果がないと判断することも早計であろう。本研究で読解速度に影響を与える可能性として見出された保育系学生の読みの傾向とあわせて、今後多読が保育系学生に与える影響を調査する必要があると考える。

VI. おわりに

2年間にわたり本短期大学で多読実践に取り組んできた。当初の期待通り、学生の英語学習に対する動機を高めることはできていると考える。また、本研究を通して、保育系学生が子供への読み聞かせを意識しながら多読活動に取り組んでいる可能性があることが分かった。ゼミナールで小学校に出かけ、英語の絵本の読み聞かせを学生にさせたことがあるが、多読をした学生が読み聞かせをした本は多読で自分が読んだ本であった。英語の授業における多読実践それ自体が、読み聞かせのよい練習になっていたのかもしれないと思った。

多読は、単に英語学習を意識して行われるべきものではなく、より可能性のある活動であるのかもしれない。これからも多読実践を行い、学生の様子を見ながら多読の可能性を探っていきたい。

(第1執筆: I、II、III、V、VIを執筆)

(第2執筆: IVの執筆及びVの分析補助)

注

- (1) 松井千代・松井孝彦 (2016a) 「短期大学生に対する英語の授業内多読—英語を読むことに対する情意面への影響—」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』49、pp.57 - 64
- (2) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (3) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (4) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (5) 長谷尚弥・釣井千恵・ハーバード久代・山科美

- 和子・中野陽子 (2015) 「授業内 SSR を中心とした多読指導が英語学習者のリーディングに対する姿勢に与える影響について」『国際学研究』4 (1)、pp.1 – 8
- (6) 水野知津子 (2016) 「香川高専学生の英語苦手改善・英語力向上への試み—多読の有効性を考える—」『英語教育研究』Vol.39、pp.57 – 67
- (7) 釣井千恵 (2016) 「多読用教材 (Graded Readers) を使用した読みの指導が与える影響: 非英語専攻の初級レベル学習者を対象とした場合」『人間文化研究』(4)、pp.37 – 77
- (8) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (9) 木村啓子 (2016) 「授業内英語多読の効果と参加者読書記録から読み取れたこと—日本人大学生クラスの場合—」『尚美学園大学総合政策研究紀要』(第 27 号)、pp.107 – 122
- (10) Day, R.R. & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge University Press.
- (11) Grabe, W. (2009). *Reading in a second language: Moving from theory to practice*. Cambridge University Press.
- (12) 高瀬敦子 (2010) 『英語多読・多聴指導マニュアル』大修館書店
- (13) 黛道子 (2005) 「英語多読授業の導入と成果—短期大学における 2 年間の実践より—」『順天堂大学医療看護学部医療看護研究』第 1 巻、pp.22 – 28
- (14) 竹森徹士・小玉容子・ラングクリス (2011) 「多読教育の成果と展開—2009 年度、2010 年度の多読教育から—」『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』Vol. 49、pp.17 – 28
- (15) 竹森徹士・小玉容子・ラングクリス (2012) 「多読教育の発展的試み」『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』Vol. 50、pp.9 – 18
- (16) 木村啓子 (2016)
- (17) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (18) Takase, A. (2007). Japanese high school students' motivation for extensive L2 reading. *Reading in a Foreign Language*. 19 (1). pp.1 – 18.
- (19) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (20) 松井千代・松井孝彦 (2016a)
- (21) 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1992) 「英語多読プログラム—その読解力、学習方法への影響—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』(第 6 号)、pp.1 – 12
- (22) 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1994) 「中学生英語多読プログラム—その動機づけと読解力への影響—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』(第 8 号)、pp.39 – 47
- (23) 金谷憲・長田雅子・木村哲夫・葉袋洋子 (1995) 「英語多読の長期的効果—中学生と高校生プログラムの比較—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』(第 9 号)、pp.21 – 27
- (24) Matsui, T. & Noro, T. (2010). The Effects of 10-Minute Sustained Silent Reading on Junior High School EFL Learners' Reading Fluency and Motivation. *Annual Review of English Language Education in Japan* (21). pp.71 – 80
- (25) 城一道子 (2014) 「英語絵本の読み聞かせに対する学生の態度: 教員養成課程における試み」『教育総合研究: 江戸川大学教職課程センター紀要』(3)、pp.1 – 10

引用文献

- 1) 松井千代・松井孝彦 (2016b) 「英語絵本を使った多読活動における保育系学生の読みの特徴」第 69 回日本保育学会大会、東京
- 2) 松井千代・松井孝彦 (2016b)

資料1：『英語で読むこと』に関するアンケート

「英語で読むこと」に関するアンケート

組 番 氏名

この調査票では皆さんの「英語で読むこと」について尋ねています。自分が英語を読んでいる時を思い出して下さい。それぞれの質問項目について、自分の考え、感じ方にあてはまる度合いを、下の尺度に従って、1～5の番号で示してください。

1 あてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらともいえない 4 ややあてはまる 5 あてはまる
|-----|-----|-----|-----|

- | | |
|---|----------|
| 1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。 | 1 _____ |
| 2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む（読んでいる）。 | 2 _____ |
| 3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む（読んでいる）。 | 3 _____ |
| 4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。 | 4 _____ |
| 5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。 | 5 _____ |
| 6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。 | 6 _____ |
| 7. 成績を上げるために英語の本を読む（読んでいる）。 | 7 _____ |
| 8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。 | 8 _____ |
| 9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。 | 9 _____ |
| 10. 友達の感想を聞いて英語の本を（更に）読もうと思った。 | 10 _____ |
| 11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む（読んでいる）。 | 11 _____ |
| 12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。 | 12 _____ |
| 13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む（読んでいる）。 | 13 _____ |
| 14. 英文を読むときは精読よりも多読の方が好きだ。 | 14 _____ |
| 15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む（読んでいる）。 | 15 _____ |
| 16. 授業での課題だから英語の本を読む（読んでいる）。 | 16 _____ |
| 17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む（読んでいる）。 | 17 _____ |
| 18. 知らない単語が出てくると、すぐに辞書を引きたくなる。 | 18 _____ |
| 19. 英語の本を読むことはおもしろい。 | 19 _____ |
| 20. 英語の本を読むと英文学を理解でき、その良さがよく分かるようになる。 | 20 _____ |
| 21. 英語の本を読んで視野を広げたい。 | 21 _____ |
| 22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。 | 22 _____ |
| 23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。 | 23 _____ |
| 24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。 | 24 _____ |
| 25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。 | 25 _____ |
| 26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。 | 26 _____ |
| 27. 英文を読んでいて、少くく内容が分からなくても気にしない。 | 27 _____ |
| 28. 短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む（読んでいる）。 | 28 _____ |
| 29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。 | 29 _____ |
| 30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。 | 30 _____ |
| 31. 英語の勉強の中ではリーディングが好きだ。 | 31 _____ |

資料2：多量読書群のアンケート結果

項目	多読実施前(4月)		多読実施後(7月)	
	平均(M)	標準偏差(SD)	平均(M)	標準偏差(SD)
1	3.24	1.15	4.17	0.71
2	1.93	1.16	3.10	1.26
3	1.90	1.21	2.38	1.18
4	4.10	0.94	3.79	0.90
5	1.90	1.08	2.34	1.29
6	3.66	1.17	4.24	0.69
7	2.07	1.28	2.41	1.15
8	2.55	1.18	3.86	0.95
9	4.10	1.23	3.59	0.98
10	2.45	1.24	3.45	1.06
11	2.14	1.30	2.66	1.34
12	3.03	1.35	3.86	0.92
13	2.38	1.40	2.45	1.24
14	2.79	1.24	3.34	0.90
15	1.72	0.96	2.24	1.02
16	2.97	1.40	3.34	1.14
17	1.83	1.14	2.14	1.09
18	3.72	1.10	3.55	1.12
19	2.83	1.10	4.17	0.76
20	2.76	1.06	3.38	1.01
21	4.14	0.95	3.72	0.88
22	3.24	1.33	3.86	1.13
23	3.52	1.30	3.59	1.18
24	3.79	1.18	3.03	1.38
25	4.72	0.59	4.52	0.74
26	1.55	0.74	1.97	0.94
27	3.52	1.18	3.72	1.31
28	2.17	1.28	2.28	1.28
29	1.41	0.68	1.86	0.88
30	3.72	1.28	3.34	1.32
31	3.17	1.14	3.52	0.91

資料3：少量読書群のアンケート結果

項目	多読実施前(4月)		多読実施後(7月)	
	平均(M)	標準偏差(SD)	平均(M)	標準偏差(SD)
1	2.97	0.93	4.30	0.99
2	1.60	1.13	2.77	1.30
3	1.57	1.07	2.17	1.34
4	3.73	1.20	3.37	1.22
5	1.30	0.70	2.27	1.31
6	3.37	1.03	4.27	0.94
7	1.40	0.62	2.33	1.12
8	2.03	0.96	3.47	1.01
9	3.37	1.63	3.63	1.19
10	2.23	1.17	2.77	1.07
11	2.10	1.21	2.57	1.19
12	2.50	1.17	3.73	1.34
13	1.70	0.99	2.60	1.25
14	3.03	1.10	3.67	1.06
15	1.37	0.56	1.97	0.96
16	2.67	1.49	3.23	1.28
17	1.53	1.01	2.00	1.20
18	2.93	1.55	2.87	1.17
19	2.57	1.19	3.60	1.04
20	2.33	1.06	3.17	1.15
21	3.40	1.33	3.50	1.25
22	2.23	1.43	3.23	1.36
23	4.00	1.34	3.50	1.22
24	4.03	1.10	3.20	1.21
25	4.37	1.00	4.03	1.25
26	1.37	0.72	1.87	0.97
27	3.77	1.17	3.50	1.11
28	1.40	0.72	2.50	1.31
29	1.33	0.76	2.03	1.30
30	2.87	1.50	2.77	1.41
31	2.90	1.12	3.03	1.13